

橋梁設計の手引き

令和元年 7 月

愛 知 県 建 設 局

まえがき

「橋梁設計の手引き」は、橋梁設計実務に即活用できる手引書とするため、「道路構造の手引き」から独立させ、道路橋示方書をはじめとする橋梁全般に関わる基準等を幅広く収録し、平成8年4月に発行された。

その後、平成12年3月と平成15年3月に、阪神淡路大震災を踏まえ大幅な見直しが進んだ「道路橋示方書・同解説」に合わせた改定を、平成20年3月には橋梁の長寿命化のための維持管理内容を充実するなどの改定を、平成25年4月には「道路橋示方書・同解説 H24.3」の改定とともに橋梁の実務経験の浅い職員においても活用できるように見直しを行うなど、これまで4回の大幅な改定を行ってきた。

この度、大幅に改定された「道路橋示方書・同解説 H29.11」に対応すべく改定を行った。道路橋示方書の主な改定点と「橋梁設計の手引き」への対応は、以下のとおりである。

- 橋の構造形式や使用材料の多様化を踏まえ、鋼部材とコンクリート部材をどのように組み合わせる場合にも橋として求められる性能を明確にするように、編構成の見直しがなされた。
- 橋全体として性能の評価が可能であるように、橋の耐荷性能、橋の耐久性能及び橋の使用目的との適合性を満足するために必要なその他の性能の3つの性能が規定された。これらは手引きの第1章で説明を追加した。
- 限界状態設計法や部分係数法の導入に伴い、鋼部材、コンクリート部材の荷重体系、設計体系が統一された。

本手引きを活用することにより、愛知県の重要な社会資本である「橋梁」を、より高い安全性と耐久性を有する、質の高いものとしていくことを望むものである。

令和元年7月

建設局 道路建設課
建設局 道路維持課

橋梁設計の手引き

総目次

- 第1章 総 則
- 第2章 橋梁計画・調査
- 第3章 上 部 構 造
- 第4章 下 部 構 造
- 第5章 耐 震 設 計
- 第6章 上下部接続部，付属物等
- 第7章 施 工 計 画
- 第8章 景 観 設 計
- 第9章 橋 梁 保 全
- 第10章 橋梁設計における手続きと照査
- 第11章 参 考 資 料